

阪神・淡路大震災
被災学校園
復旧・復興記録集



神戸市教育委員会

阪神・淡路大震災被災学校園復旧・復興記録集

は じ め に

未曾有の大震災から３年をへて学校園の補修・建替工事が竣工いたします。神戸の震災復興の営みはまだつづきますが、このたび学校施設の災害復旧工事の完了を一区切りに、その記録集をまとめました。

震災によって、学校施設も市のほかの施設と同様に大きな被害を受け、地震当時全345校園のうち、被害を受けた学校園はその約85%の295校園にのぼり、そのうち20校園について校舎などの建替をおこないました。

災害復旧工事の実施にあたっては、防災機能の向上に努めました。具体的には、子供の安全確保のための建物強度の引上げや備品の転倒防止措置などの対応とともに、学校園の避難所としての位置づけも考慮し、多目的スペース、備蓄倉庫やシャワーなどを設置しております。

また、災害に強い学校園づくりは、環境にやさしい学校園づくりにつながり、雨水利用システムや太陽光発電システムは、環境への負荷を低減するとともに、環境教育の生きた教材となっています。

新たな世紀を迎えるにあたって、今後とも阪神・淡路大震災の教訓を生かしながら、災害に強く防災機能を備えた、また日頃から地域に開かれた学校園づくりの努力をつづけてまいります。

最後となりましたが、事業計画の策定および実施の面で文部省、兵庫県教育委員会の方々に、設計・施工管理の面で他都市からの応援、市の関係部局とくに住宅局および財団法人神戸市都市整備公社そして学校園の現場の方々から、数多くのご協力をえましたことをこの場をかりてお礼を申し上げます。

神戸市教育長 鞍 本 昌 男

阪神・淡路大震災被災学校園復旧・復興記録集 目次

第1章 学校施設の被害状況	1
(「阪神・淡路大震災 神戸の教育の再生と創造への歩み」より)	
1. 神戸を襲った未曾有の大震災	1
(1) 兵庫県南部地震の発生	2
(2) 地震による被害	2
2. 学校教育における地震直後の被害と影響	6
3. 防災の拠点施設としての課題	12
4. 学校園復旧工事の実施	16
第2章 建替各校園の改築内容	17
1. 幼稚園	
(1) 御影幼稚園	19
(2) 西野幼稚園	23
2. 小学校	
(1) 本庄小学校	27
(2) 本山第二小学校	31
(3) 本山第三小学校	35
(4) 灘小学校	39
(5) 北野小学校(こうべ小学校)	43
(6) 宮川小学校	47
(7) 多聞東小学校	51
3. 中学校	
(1) 本庄中学校	55
(2) 本山中学校	59
(3) 魚崎中学校	63
(4) 御影中学校	67
(5) 鷹匠中学校	71
(6) 烏帽子中学校	75
(7) 丸山中学校	79
(8) 飛松中学校	83

4. 高等学校	
(1) 須磨高等学校	87
(2) 神港高等学校	91
(3) 神戸商業高等学校(六甲アイランド高等学校)	95
＜ 資 料 ＞	99
1. 学校園被害状況一覧(主な被害)	100
2. 災害建替校の契約状況表	112

第1章 学校施設の被害状況

1. 神戸を襲った未曾有の大震災
2. 学校教育における地震直後の被害と影響
3. 防災の拠点施設としての課題
4. 学校園復旧工事の実施

1. 神戸を襲った未曾有の大地震

平成7年1月17日午前5時46分、強烈な都市直下型地震が兵庫県南部地域を襲った。大阪府、京都府を含む被災地全域では、木造家屋の倒壊や大規模な火災により6,308人（平成7年12月27日現在、消防庁調べ）もの犠牲者が出た。また、ピーク時で30万人を超える被災者が学校園などに避難し不自由な生活を強いられた。美しい港町の風景は一変。都市基盤は崩壊、交通網・ライフラインは寸断され、市民生活は混乱をきわめた。

（1）兵庫県南部地震の発生

「兵庫県南部地震」は、まだ明けやらぬ午前5時46分に発生した。このとき気温は摂氏3.4度。真冬の寒い朝だった。最大震度7という観測史上最大の地震により、県内での死者は6,279人、家屋の全半壊は192,706棟（406,337世帯）にのぼった。また、複数個所で発生した大規模火災により7,456棟の家屋が全半壊。関東大震災を彷彿とさせる未曾有の被害となった（平成7年12月27日現在、いずれも兵庫県調べ）。

地震の概要

・発生日時	平成7年1月17日（火）午前5時46分
・震源地	兵庫県淡路島北部 （北緯34.6度、東経135度）
・震源の深さ	約14km
・規模	マグニチュード7.2
・震度	最大震度7（観測史上最大）
・最大加速度	南北動 818ガル 東西動 617ガル 上下動 332ガル
・特徴	縦揺れと横揺れが同時に発生 大都市直下型地震
・余震回数	延べ2,338回（1月17日～11月30日） うち有感地震は305回

（2）地震による被害

①神戸市の被害

市内の死亡者は、震度7の激震地域である東灘区、灘区、兵庫区、長田区を中心に4,484人（平成7年12月27日現在、災害関連死を含む）にものぼった。行方不明者は1人。死亡原因の約9割は、家屋の倒壊などによる圧迫、窒息死であった。年代別では60歳以上の高齢者が半数以上を占めている。負傷者は14,679人にのぼった。

また、家屋の倒壊、焼失などにより、多くの市民が地震直後から付近の学校園などに避難。ピーク時には、市内599か所に22万人（就寝者）を超える市民が避難している。以後、学校、体育館、公園などで、長期間にわた

る避難所生活を余儀なくされた。

不自由な避難所を解消するため、平成7年8月末までに仮設住宅33,621戸が建設された。また、公営住宅の建設や融資制度などによる民間住宅の供給支援なども積極的に進められている。

なお、家屋の倒壊などにより、市外への転出者が増加。震災後の神戸市の人口は震災前の152万365人（平成7年1月1日現在）から、142万3,830人（平成7年10月1日国勢調査）に減少した。

②建物の倒壊と火災

市内の倒壊家屋は、南部の既成市街地を中心に、全壊67,421棟、半壊55,145棟に及んだ。特に東灘区、灘区、須磨区、長田区の木造家屋の多くが倒壊した。

さらに、地震直後に兵庫区、長田区など市内各地で同時発生した大規模な火災により7,048棟の家屋が全半壊した（火災発生件数175件、焼失面積819,223㎡）。

また、震度7という想像を絶する大揺れが縦横に同時に起こったため、三宮を中心とする都心部を中心に多くの商業・業務ビルも倒壊。都市機能はマヒした。

被害を受けた建物は順次、解体撤去・再建されている。しかし、倒壊家屋などの解体にともなう廃棄物が急増し、1,100万㎡と膨大な量に及んでいる（平成7年10月31日現在）。

- ・要解体棟数 68,503棟
- ・受付件数 65,125件
- ・解体撤去数 55,000件

③公共施設の被害

公共の建築物も多くが被害を受けた。市役所（2号館）、市立西市民病院、消防署などが崩壊、破損した。

教育・文化施設では、85%を超える学校園が何らかの被害を受けた。また、博物館、小磯記念美術館、各区の図書館、体育館、区民センター、公民館、水族園、ポートアイランドスポーツセンターなど、多くの社会教育・体育施設なども被害を受けた。

・交通網の寸断と再開

交通網も大きな被害を受け、復旧には長い時間を要したため、市民の足は混乱した。

高速道路などの幹線道路も大打撃を受けた。高架の阪

神高速道路は、東灘区深江本町付近で600mにわたって横倒しになったのをはじめ、各所で損傷を受けた。市内の道路は大渋滞し、緊急車両の通行や救援物資の搬送に大きな支障となった。

地震発生と同時に阪神間の全鉄道が途絶し、代替輸送バスに長い行列ができた。そのため多くの市民は徒歩、自転車、バイクで移動せざるをえなかった。

鉄道は、懸命な復旧工事により、段階的に部分開通。4月1日、ようやくＪＲ西日本神戸線が全線開通したのを皮切りに、6月下旬には新交通システムなどの一部を除いて、阪急、山陽、神戸、阪神の各鉄道が順次、開通した。開通時期は次のとおりである。

- 2月16日 市営地下鉄一部（新長田、上沢、三宮駅通過）
- 3月31日 市営地下鉄全線
- 4月1日 ＪＲ西日本神戸線
- 4月8日 山陽新幹線
- 6月12日 阪急電鉄
- 6月18日 山陽電鉄
- 6月22日 神戸電鉄
- 6月26日 阪神電鉄
- 7月31日 ボートライナー
- 8月13日 神戸高速鉄道（大開駅通過）
- 8月23日 六甲ライナー
- 平成8年1月17日 神戸高速鉄道（大開駅再開）

・人工島の液化化現象

六甲アイランド、ポートアイランドなどの人工島や埋め立て地では、液化化現象が起こった。これは地下水で飽和している緩い砂の地盤が地震で揺すられたため、地中の水圧が上がって砂が水の中に浮いた状態となり、地上に噴出する現象である。これで島の大部分が沈下し、港湾施設、ライフラインが大きな損傷を受けた。

また、陸地と人工島を結ぶ神戸大橋、新交通システムも損傷。長く交通が遮断されるなどの被害を受けた。

・港湾施設等の被害

世界有数の国際貿易港である神戸港の被害も大きかった。約116kmに及ぶ水際線の大部分が損傷、186の公共岸壁のうち177が被害を受けた。特に、外貨貨物の約7割を取り扱っていた21のコンテナターミナルの全てが被災した。



地震直後から市内各地で火災が発生し、幹線道路は大渋滞となった（1月17日 長田区付近）

また、港の周辺道路の損傷、クレーンや倉庫の倒壊などにより港の機能は一時停止した。その後、順次復旧し9月の輸出入総額は、震災前の約8割にまで回復した。

・産業の被害

神戸製鋼、川崎製鉄、三菱重工などの製鉄・造船など大手企業6社の本社ビルの一部が倒壊、中小製造業の集合同地や工場が損傷を受けた。特に、ケミカルシューズ、清酒、紳士服などの地場産業の被害は大きかった。ケミカルシューズ業では約8割が社屋や工場など全半壊または全半焼した。清酒製造業では31社中17社が全半壊した。

また、商店街の約3割、市場の約半数が大きな被害を受けた。しかし、仮設共同店舗などにより徐々に営業を再開、街中は次第に活気を取り戻している。

・文化財・観光施設の被害

年間300万人の観光客で賑わう北野地区では、風見鶏の館やラインの館など、多くの異人館が損傷を受けた。酒蔵地区の資料館3館、神社、仏閣も倒壊や破損した。市内の貴重な文化財や多くの観光資源が被害を受けた。

主要ホテルなどの被害も少なくなかったが、順次再開。また、観光施設も夏には約8割が再開した。

④ライフラインの被害と復旧

地震により、水道、ガス、電気など生活に不可欠なライフラインの大半が、全市域にわたって被害を受け、市民生活は長く制約を受けることになった。

なかでも影響が大きかったのが断水で、長期間にわたって給水車に長い行列ができた。炊事、トイレ、風呂、暖房などの面で日々の生活は不自由をきわめた。

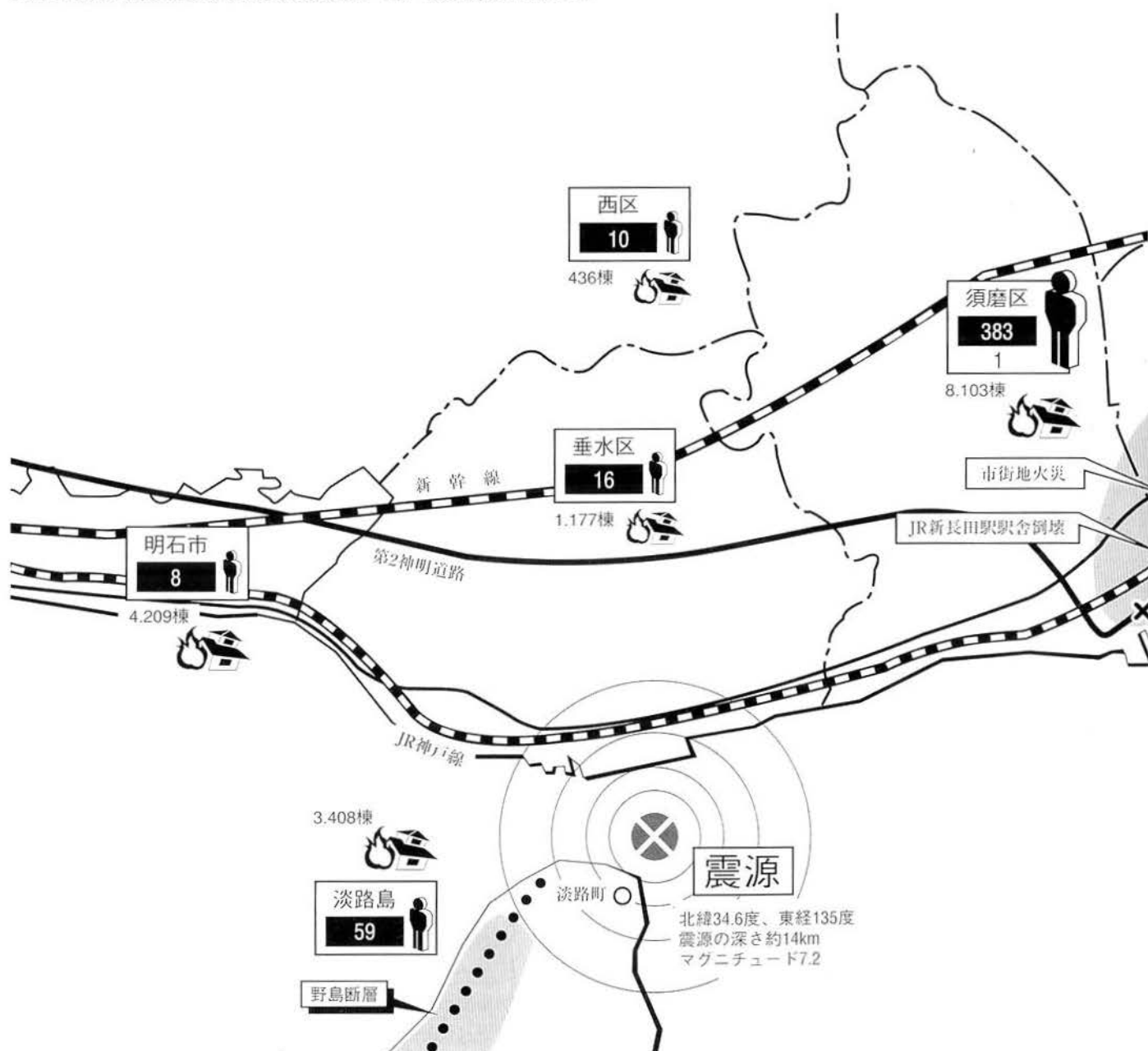
ライフラインの被害と復旧状況

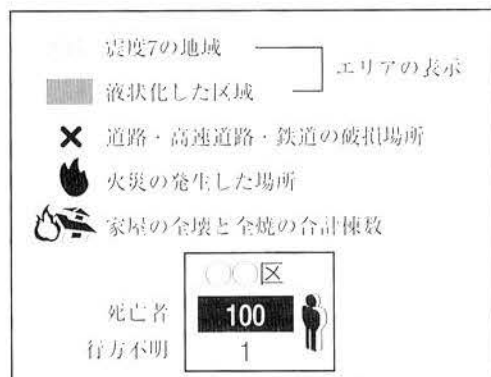
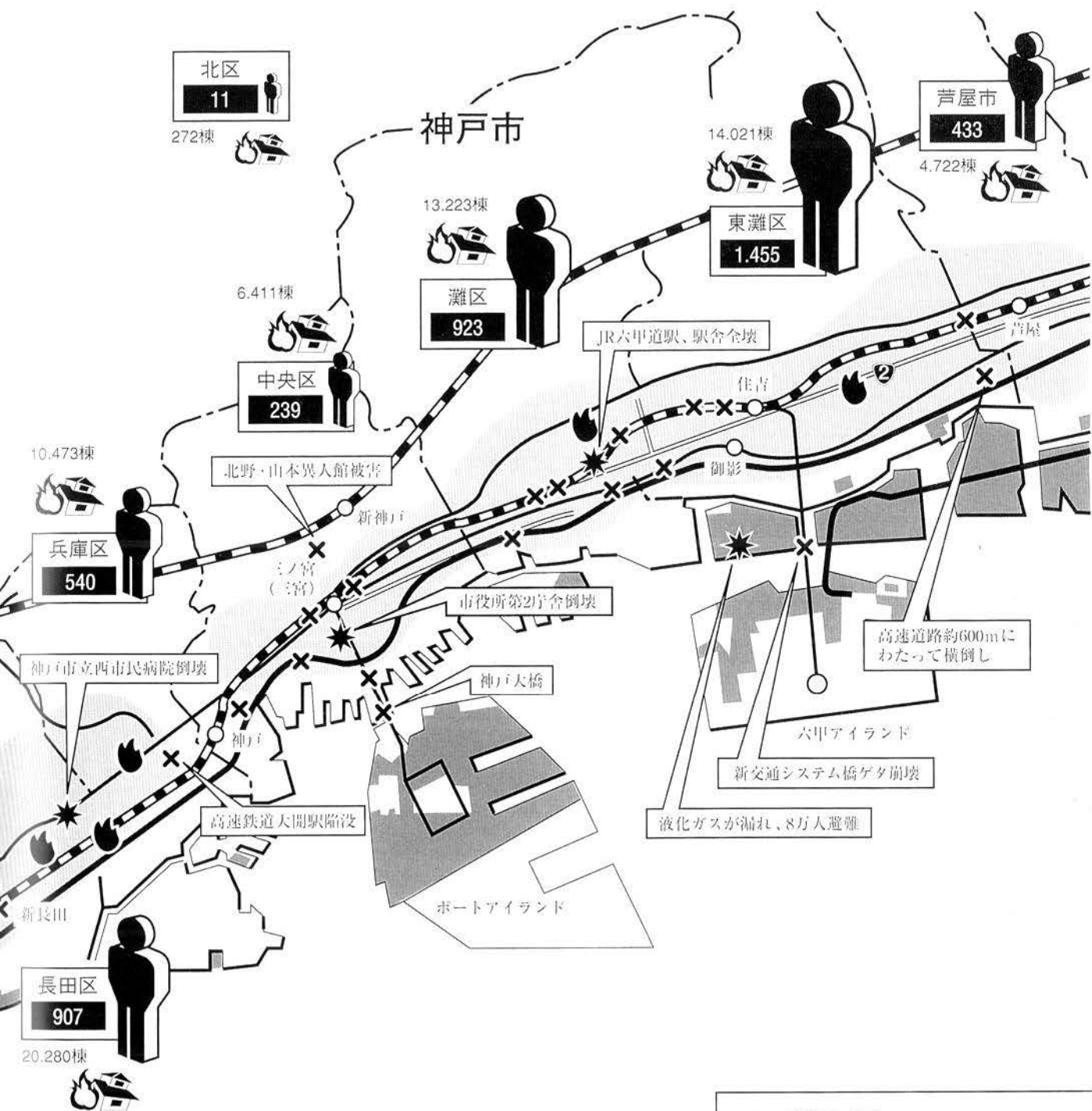
	被害の状況	応急復旧完了日
電気	市街地を中心に停電	1月23日
電話	市街地を中心に24%が不通	1月31日
廃棄物	全クリーンセンター運転停止	2月20日
水道	市街地を中心に断水	4月17日
ガス	約78%が供給停止	4月11日
下水道	下水管、処理施設等の破損（東灘処理場が機能停止）	5月1日

神戸市の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）による被害

	東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	垂水区	西区	合計
死亡者 (12/27現在)	1,455人	923人	239人	540人	11人	907人	383人	16人	10人	4,484人
負傷者 (12/27現在)	3,383人	1,112人	3,782人	1,755人	817人	533人	637人	1,020人	1,640人	14,679人
全壊 半壊 (11/20現在)	13,687棟 5,538棟	12,757棟 5,675棟	6,344棟 6,641棟	9,533棟 8,109棟	271棟 3,140棟	15,521棟 8,282棟	7,696棟 5,608棟	1,176棟 8,890棟	436棟 3,262棟	67,421棟 55,145棟
全焼 半焼 (11/21現在)	334棟 15棟	466棟 2棟	67棟 17棟	940棟 15棟	1棟 —	4,759棟 13棟	407棟 9棟	1棟 2棟	— —	6,975棟 73棟
焼失面積 (11/21現在)	38,140㎡	65,294㎡	13,694㎡	128,228㎡	55㎡	523,546㎡	50,025㎡	164㎡	77㎡	819,223㎡

※死亡者数は、震災関連として認定した数を含む（神戸市災害対策本部まとめ）





2. 学校教育における地震直後の被害と影響

史上最大の大都市直下型地震は、神戸の学校教育にも多大な影響をもたらした。児童生徒、教職員の尊い命が奪われ、学校園や社会教育施設などの施設・設備もその多くが損壊した。学校教育の場と児童生徒の生活環境は激変した。

学校園の被害状況

今回の震災では、神戸市立の全345校園2分校のうち、大小何らかの被害を受けた学校園は295校園2分校にのぼる。これは全校園の85%にあたる。

その被害は全市域にわたるが、その直下で激震が起こった地域とそうでない地域とでは、同じ市内でも被害にかなりの差があった。特に被害が大きかったのは、東灘区・灘区・中央区・兵庫区・長田区・須磨区南部などの六甲山以南の人口が集中している旧市街地である。新興地区・農村地区を有する北区・垂水区・西区の各区では、被害は比較的小さかった。

平成6年度の神戸市立学校園数及び被災校園数 ※（ ）内は分校

校 種	校園数	被災校園数	比率 (%)
小学校	173	161	93.1
中学校	82 (2)	78 (2)	95.1
高 校	12	12	100.0
幼稚園	71	37	52.1
盲・養護	6	6	100.0
高 専	1	1	100.0
合 計	345 (2)	295 (2)	85.5

①建物の被害

校舎の被害は、神戸市公共建築物震災調査会（※第4章P146参照）による構造判定では、次の結果となった。

- ・被害が甚大で建て替えを必要とする棟
——ランクA 21校園・27棟
- ・建物の主要構造物にあたる柱などの座屈破壊があり、構造補強など大規模改修工事をともなう棟
——ランクB1 10校園・10棟

- ・間仕切り壁、床等に亀裂などがあり中規模程度の改修工事をともなう棟
——ランクB2 35校園・47棟
合計50校園（延べ66校園）84棟

（注：本調査、被害ランクA未満の棟にも、建替の際に併せて一般事業で改築したものもある。）

・被災校の地理的分布

学校施設および被災校園の分布は、次ページの地図に示すとおりである。大きな被害が出たのは、河川の氾濫などで形成された地域および粘土多質地帯である。

また、埋め立て地では、地盤の沈下・液状化の被害が顕著だが、上部構造体の被害は比較的小さかった。

・被災校の建物の被害状況

同調査会の調査結果によると、今回の地震による建物被害に関して、以下のようにきわだった特徴が見られた。被害は学校園の構造や規模との関連も少なくない。

建物被害の特徴

- ・地盤沈下・液状化等による建物の傾斜、杭頭の破断
- ・中高層建築物の中間階の崩壊
- ・柱及び壁の剪断破壊
- ・異種構造体取り付け部ボルト及び屋根架構ブレースの破断
- ・エキスパンションジョイント部及び渡り廊下の損傷
- ・増築部分の損傷
- ・擁壁、ホール天井等の非構造物材の損傷及び落下

学校施設の主な被害状況

- ・1階部分の柱の剪断破壊、座屈あるいは圧壊現象
- ・上部階に講堂あるいは体育館のある建物における、その部位の妻壁及び柱の剪断破壊、及び他の部分における柱・屋根トラス接合部被害
- ・地盤の沈下による建物傾斜

・教室、その他の被害

普通教室・特別教室では天井落下や床面陥没が発生した。被害は普通教室306、特別教室201であり、これらはそれぞれ全教室のおよそ5%、7%にあたる。講堂・体育館でも、4割を超える学校園で天井の破損が発生し、大きな被害を受けた。

その他、校舎などの被害として、窓ガラスの破損、防火扉の閉鎖、校舎渡り廊下・校舎出入口扉・非常階段の使用不能などが起こった。



壁が落ち、出入口が破損した教室（飛松中・須磨区）



天井が落下した講堂（本多間小・垂水区）

その他の被害状況

	校園数	個所数	補修必要数
窓ガラス破損	205	約4,400枚	—
防火扉の閉鎖	115	745	—
渡り廊下の使用不能	30	62	201
出入口扉の使用不能	31	85	227
非常階段の使用不能	9	14	44

②工作物の被害

校園舎や体育館などの建物だけでなく、プール、グラウンドなどの付帯施設にも大きな被害が発生した。

・プール

水槽亀裂、給排水管の破裂などにより、学校プールも大きな被害を受けた。設置257校園のうち、被災校園は126校園（設置校園比49.0%）に及んでいる。

そのうち、82校園（被災校比65.1%）は水泳シーズンまでに補修を完了したが、残る44校園（被災校比34.9%）

教室の被害状況

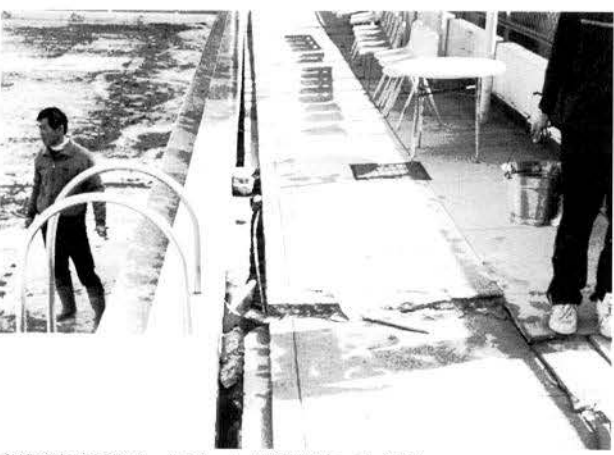
	校園数	教室数	比率(総数比)
普通教室の天井落下・床面陥没	51	306	5.0%
特別教室の天井落下・床面陥没	68	201	7.1%
講堂・体育館の天井落下等※	143	1,001	43.6%

※講堂・体育館の教室数は個所数
比率は、被害を受けた学校園数／講堂・体育館のある学校園数

の補修はシーズンには間に合わなかった。

プールの被害

被害内容（複数回答）	校園数	比率（設置校比）
水槽亀裂	62	24.1%
給排水管破裂	60	23.3%
濾過器破損	32	12.5%
全体傾斜	23	8.9%
その他	100	38.9%



水槽の亀裂が起こったプール（歌敷山中・垂水区）

・グラウンドなどの被害

グラウンド被害は、全校園の60%にあたる207校園で見られた。被害内容は、地割れ、液状化、部分陥没、部分隆起などである。

また、校舎出入口付近の地盤も、陥没、隆起、コンクリート破損などで216校園（全校園の62.6%）が被害を受けている。

グラウンドなどの被害

被害内容（複数回答）	校園数	比率（設置校比）
地割れ	124	35.9%
地割れ段差	50	14.5%
部分陥没	80	23.2%
部分隆起	22	6.4%
液状化	24	7.0%



液状化現象が起こったグラウンド（港島小・中央区）

校舎出入口付近の地盤被害

被害内容（複数回答）	校園数	比率（設置校比）
陥没	122	35.4%
隆起	31	9.0%
コンクリート破損	136	39.4%
異常なし	129	37.4%

・塀の被害

塀の被害は、全校園の55%にあたる191校園で見られた。被害内容は亀裂、傾斜、倒壊などで、材質としては、鉄筋コンクリート・鉄筋ブロックに被害が大きく、生け垣では被害が小さかった。今後の施設再建にあたっては考えなければならない項目である。

塀の被害

被害内容（複数回答）	校園数	比率（設置校比）
亀裂	105	30.4%
傾斜	43	12.5%
倒壊全部	17	4.9%
倒壊一部	71	20.6%
その他	16	4.6%



大きく崩れた塀（魚崎小・東灘区）

③設備・備品の転倒・落下

学校園内には教材として多くの設備・備品類がある。この大地震で、それらの転倒・落下が目立った。もし地震が昼間授業中に発生していたとすれば、校園内では多数の負傷者が発生していたと考えられる。

今後の学校園の安全確保のためには、こうした不測の事態にどう備えていくかが重要な課題の一つである。

・転倒・落下の多かった設備

最も転倒、落下が多かったのは図書室の書架、そして書棚である。しかし備品の大小、重量を問わず、あらゆる備品の転倒・落下が見られた。

なかでも、転倒・落下により死傷者が出ると考えられる重量の大きなものは、特に今後の補強が重要な課題である。

(例) ・金庫(600kg以上)の転倒・テレビの落下

・ピアノの転倒 ・冷蔵庫の転倒

転倒・落下の多かった設備・備品例(被災率上位10)

設備・備品	被災率(%)	被災備品数	全体備品数
1. 図書室書架の転倒	25.4	818	3,221
2. 書棚の転倒	23.7	1,264	5,335
3. コンピュータの落下	19.9	597	3,007
4. 重要文書保管庫の転倒	19.2	129	673
5. 清掃用ロッカーの転倒	18.7	1,287	6,865
6. テレビの落下	18.0	1,020	5,656
7. 薬品庫の転倒	15.4	117	762
8. コンピュータの転倒	12.0	361	3,007
9. 冷蔵庫の転倒	8.5	86	1,012
10. OHPの落下	7.6	219	2,892

※OHPはオーバー・ヘッド・プロジェクター



グランドピアノも転倒した(多聞東中・垂水区)

・給食設備の被害

給食設備の被害も大きく、使用不能、修理不能となった学校園は全校の約30%である。

平成7年3月1日現在の状況は、次のとおりである。

・給食が実施可能な学校/90校

・条件整備の必要な学校/88校

ガス等の復旧により実施可能な学校 39校

設備の損傷により実施不可能な学校 38校

給食室が他目的に使用されている学校 7校

大規模補修及び建て替え等の必要な学校 4校



食缶戸棚が転倒した給食室(本山南小・東灘区)

神戸市立学校園の被害分布図



被害ランク	東灘	灘	中央	兵庫	長田	須磨	垂水	北	西	計
A	9	3	1	1	4	2	1			21
B 1		1		1	2	3	2	1		10
B 2	10	2	4	2	6	2	7	1	1	35
計	19	6	5	4	12	7	10	2	1	66

3. 防災の拠点施設としての課題

これまで神戸の学校園建設については、建築基準法や消防法などに定められた、学校防災上の配慮を十分に行ってきた。しかし、今回のような都市直下型の大地震を想定した児童生徒の安全対策や、避難所としての学校園の設備面での対応はなされていなかった。阪神・淡路大震災で得られた教訓を、今後の神戸の学校園の復興に生かしていく必要がある。

(1) 震災の教訓と課題

阪神・淡路大震災は、学校の防災体制や防災機能を見直す大きな教訓を与えた。一つは、児童生徒が学校にいるときに大地震が発生すれば、その安全をどう守っていくかということであり、もう一つは、大災害時に学校園は市民の一時的な避難所になるということである。

神戸市の学校園の復興は、これらの視点で早期に再建し、ハード・ソフトの両面から整備していく必要に迫られている。

① 幼児・児童生徒の安全を守る

最も大きな課題は、教育活動中に大地震が起きた場合、子どもの安全対策をどのようにしていくかということである。そのためには、まず建物自体の堅牢性が求められる。

今回の地震では、御影幼稚園（東灘区）、西野幼稚園（長田区）の木造園舎をのぞいて、倒壊した校舎はなかった。しかし御影中西館（東灘区）や神港高校校舎（兵庫区）は傾斜した。校舎の耐震構造の強化が求められるが、これには莫大な経費が必要であり、大きな行政課題である。

また、学校園には、教材、教具をはじめ多くの備品や設備がある。今回、これらの備品の多くが転倒、落下した。その中には金庫、ピアノ、テレビなどの重量物、実験用薬品などの危険物も含まれている。

児童生徒などの避難経路改善も必要である。常に通っている渡り廊下や校舎入口の扉が破損したり、防火シャッターが閉まったりしたケースも多い。

これらの事例から子どもを守るには、多くの経費と技術上の安全対策の向上を検討していく必要がある。

② 学校園の防災機能の見直し

学校園に避難した市民は、震災6日後の1月23日に最高で13万人余を数えた。しかし、震災直後の学校園には、食料、飲料水、医薬品、寝具などの備えはなく、ライフラインや情報伝達の代替手段もなかった。

一方、避難した市民は、家族や家屋を失った憔悴と救急活動で疲労状態にあった。しかし、市民の良識と校園

長をはじめ教職員の機敏な対応で、大きな混乱にはつながらなかった。

震災後7か月を経た8月20日、学校避難所は解消されたが、それまでは避難住民の60%を常に学校園が収容してきたのである。

「神戸市地域防災計画」では、多くの学校園が避難所に指定されており、「神戸市復興計画」でも、学校園は地域の重要な防災拠点の一翼を担うことになっている。今後、教育委員会では、学校園本来の機能である「教育の場」と「地域コミュニティの核」としての防災機能を整合させながら、学校園の復興をめざしていかなければならない。

(2) 神戸市復興計画と学校園の防災機能

平成7年6月に、市が策定した神戸市復興計画は「単に、震災前の姿に戻すにとどまることなく、震災の経験や教訓を生かし、より安全で快適な、にぎわいと魅力あふれるまちをめざし『アーバンリゾート都市づくり』に資する」ことを復興まちづくりの目標に掲げている。

学校園や社会教育施設の復興においても、重要な位置づけが示されている。

① 安全都市づくりと学校園

神戸市復興計画は、震災の教訓や体験から「安全都市づくり」（復興計画第3章）を大きな柱の一つとして、まちづくりを進め、防災モデル都市を実現しようとするものである。

「防災生活圏」「防災都市基盤」「防災マネジメント」の3つを整備目標に掲げ、ソフト・ハードの両面から都市の安全性と市民生活の安心を確保していこうとする内容となっている。

この中で、学校園は防災生活圏（三重構造＝「近隣生活圏」「生活文化圏」「区生活圏」）における近隣生活圏の地域防災拠点として重要な位置づけがなされている。

・ハード機能

地域防災拠点の一翼を担う施設として位置づけられた学校園が、今後備えていくべきハード機能として、次のことが指摘できる。まず、災害時にも、児童生徒および地域住民の安全を確保し、避難者が自立した生活を送ることができる機能である。そのために、避難生活に必要なスペースの確保、情報の受発信、飲料水・食料などの提供を行うことのできる施設整備の検討が必要である。具体的には、次のとおりである。

施設の耐震性の向上

〔建て替え〕

老朽度を考慮し、昭和39年以前の校舎は建て替えにより耐震性を向上させる。さらに、建て替えに際しては以下の耐震性の向上施策もあわせて検討する。

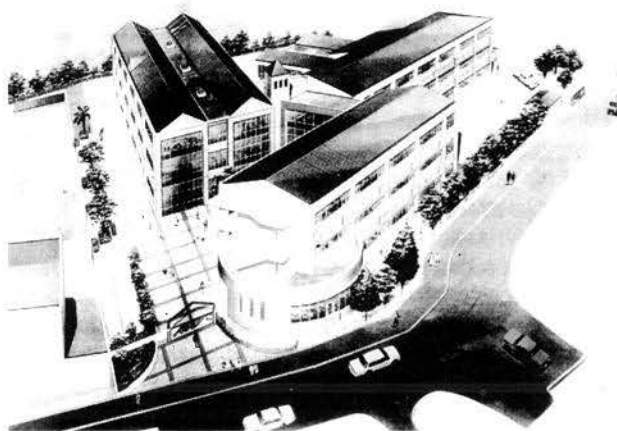
- ・構造用途係数の引き上げ（保有耐力について1・1.25）
- ・基礎設計の見直し
- ・屋外工作物の耐震性の向上
- ・ブロック塀のフェンス化、生け垣化
- ・高架水槽の廃止（水道の直圧、受水槽からの加圧化）
- ・エキスパンションジョイント、渡り廊下の工法改良
- ・体育館天井の直天井化
- ・プールの耐震化（FRP、ステンレスプールの導入）
- ・薬品庫室、コンピューター室の床免震
- ・設備配管等耐震性の強化
（敷地内共同溝、フレキシブル配管、沈下升等の設置）
- ・備品等の転倒防止工事

〔既設校〕

昭和40年から46年の校舎は耐震診断の上、耐震補強を行う（昭和47年以降の校舎は構造耐震指標（IS値）が基準値0.7を満たしていると考えられるため構造補強は実施しない）。

また、既設校では、以下も検討する。

- ・備品等の転倒防止工事
- ・講堂、体育館等の天井安全化工事
- ・ブロック塀のフェンス、生け垣化
- ・水道の直圧化



耐震性の向上、バリアフリーの推進などを考慮に入れた校舎予想図
（多聞東小・垂水区）

防災機能設備強化

学校園は災害時において、地域防災拠点として自立型ライフスポット機能を持つ必要があり、下記の施策を実施する事が望ましい。しかし、建て替え校、既設校により実施に制約があるため、実施校を選択しながら行う必要がある。

- ・備蓄倉庫の設置
- ・温水シャワー、更衣室の設置
- ・体育館、多目的ホール、職員室等のコンセントの増設
- ・太陽光発電のモデル実施
- ・給食室のガス2系統化
- ・雨水、プール水、井戸水等の利用による雑用水の2系統化
- ・通信、情報機能の確保

・ソフト機能

学校園の防災体制を確立していくには、教職員組織や地域市民を含めたソフト面の整備も欠かせない。教育の場としての学校園本来の機能を、早急に再開しなければならないからである。教室数の不足、教員の人手不足など、この震災から得た教訓を今後のソフト機能整備に生かしていくことが大切である。

また、その整備を図るには、何よりも震災からの復興のなかで、市民や教育関係者の具体的な合意づくりが求められる。

(3) 災害に強い学校づくり

今回の震災は、学校の防災体制や防災機能を見直す大きな契機となった。震災の教訓を生かすため、『子供の安全の確保』と『避難場所としての機能』という観点から、ハード、ソフト両面から学校園の防災体制の充実に取り組んでいる。

被災した学校園施設の早期復旧に加えて防災機能の向上については多大の費用を要するが、計画的に建て替え、耐震補強等を実施していく。また、備蓄倉庫や多目的室の設置、学校間情報システムの構築などにより、学校の防災機能の強化に取り組んでいる。

①ハード整備

児童生徒の安全の確保

校舎等の耐震性を向上させるとともに、古い校舎の耐震補強、計画的な建て替えなどを実施していく。また、備品、設備について、今回の被害実態を教訓として必要な安全防止対策を順次実施していく。

学校園の防災機能の強化と避難所機能の整備

避難所となることを前提にした防災機能の充実強化と施設設備の整備が必要である。

学校防災機能の向上の具体的内容

・耐震度調査の実施

被害が大きかった昭和40年から46年建設校について耐震度調査の実施（昭和39年以前の建設校については、計画的に順次建て替えを実施予定）

・耐震補強工事

耐震度調査に基づく補強工事を順次中期的に取り組む

・建物本体の耐震係数の引き上げ

新築、建て替え校については構造強度を引き上げる。

（用途係数1→1.25）

・備蓄倉庫の整備

空き教室を利用した施設改修や新築・改築校においての整備（飲料水、非常食料、毛布等の備蓄など）

・多目的スペースの設置

空き教室の活用や建て替え時に設置（災害時に避難所となり得るスペースの確保）

・温水シャワールーム、更衣室等の設置

施設上可能な学校園での温水シャワールームの設置

・体育館、講堂等の天井落下防止

吊り天井形式の体育館、講堂のグラスモール化

・水道直圧化方式の採用

・ブロック壁のフェンス化、緑化

倒壊・転倒の危険性のある学校の塀を撤去し、フェンス化、緑化

・備品の安全管理

テレビ、保管庫、倉庫、ピアノなどの転倒防止措置

・敷地内共同溝、フレキシブル配管

改築校における共同溝による配管

・学校プールの改良

耐震性の向上（ステンレス・FRPプールの設置）

・学校間情報通信システムの整備

学校園（幼稚園を除く全校）にパソコン通信システムを導入（郵政省の『次世代総合防災通信ネットワーク』事業）

・太陽光発電による自家発電方式のモデル事業

（通産省事業による試験的導入）

②ソフト整備

災害時において、児童生徒の安全を確保し、教育の場としての学校園の本来の機能を早急に再開するため、災害時における『学校震災対応マニュアル』の策定や震災体験を生かす『防災教育』などについて積極的に取り組むことにより、学校園の防災体制の強化を図る。

・『学校震災対応マニュアル』の策定

・震災体験を生かす教育（学校における防災教育）

・震災体験副読本の作成、震災記録集の作成

・防災教育のカリキュラム開発、情報教育

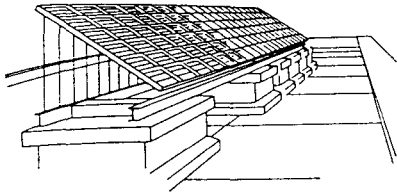
・全国からの修学旅行生の受け入れ

震災の体験学習（講師派遣）と学校間交流の実施

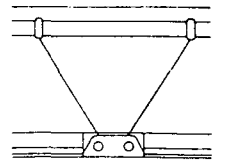
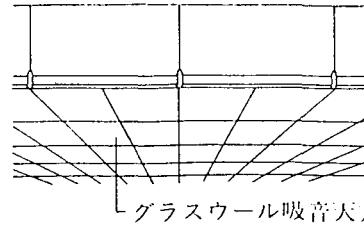
・こころのケア

対策例

太陽光発電システム

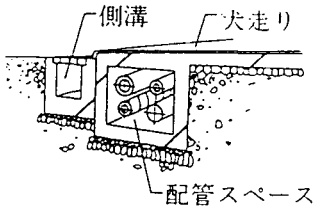


■体育館の安全対策

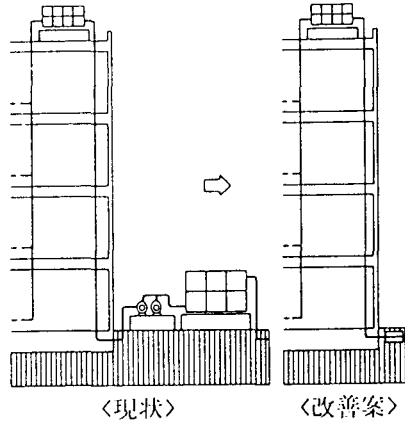


グラスウール吸音天井板 〈照明器具の固定〉

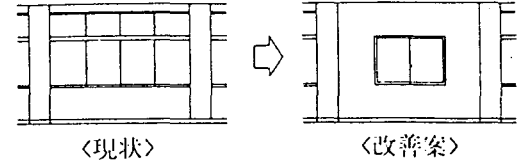
■犬走り・共同溝



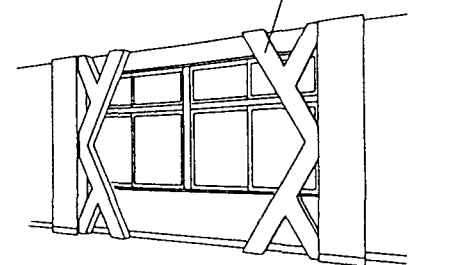
■水道の直圧化



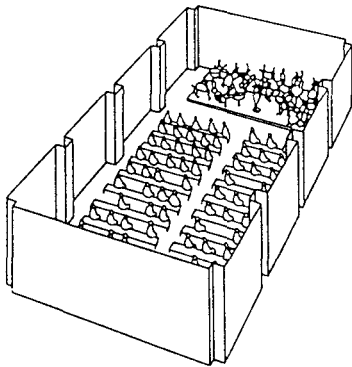
■校舎の耐震対策①



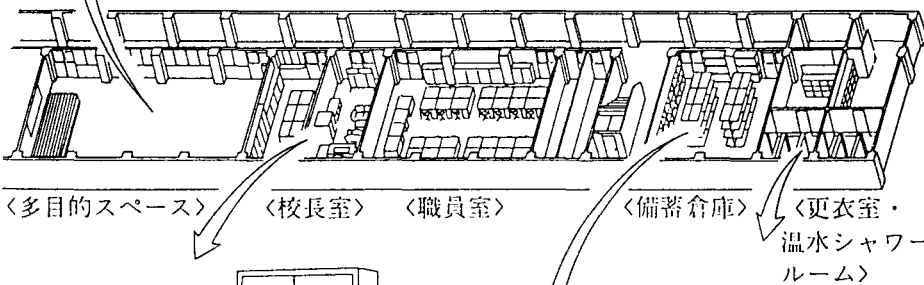
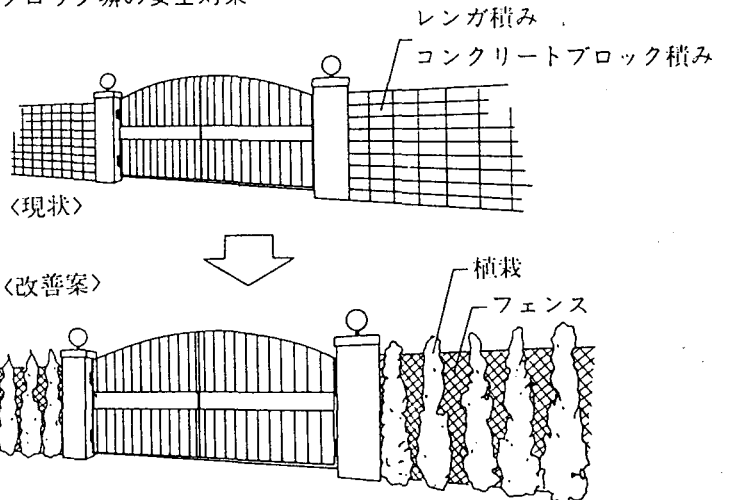
■校舎の耐震対策②



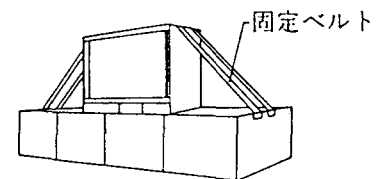
■多目的スペースの設置 (120㎡)



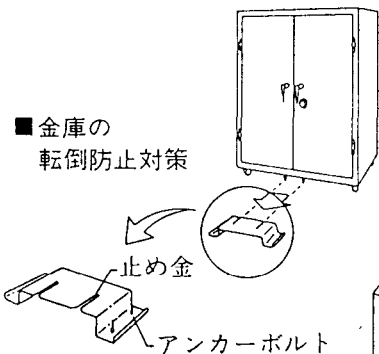
■ブロック塀の安全対策



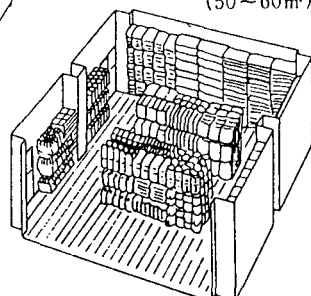
■テレビの転倒防止対策



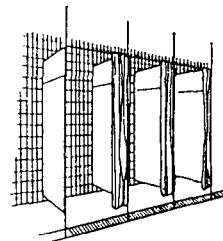
■金庫の転倒防止対策



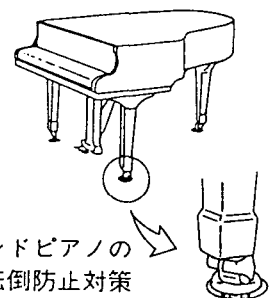
■備蓄倉庫の設置 (50~60㎡)



■温水シャワールームの設置 (70~80㎡)



■グランドピアノの転倒防止対策



4. 学校園の震災復旧工事の実施

先にふれたように、震災で、何らかの被害を受けた学校園は295校園であった。このうち、建替を必要とする甚大な被害を受けたものが21校園、補修を必要としたものが274校園である。

建替の必要な21校園のうち、統合のため現地建替を実施しない大橋中を除く20校園については、7、8、9の3か年で建替を完了した。

また、補修の必要な274校園は、8年度までに補修を完了した。

学校園復旧工事実施状況

	被害を受けた校園	うち 7年度 工事完了 校園	うち 8年度 工事完了 校園	うち 9年度 工事完了 校園	備 考
建 替 校	校園 21	校園 1	校園 5	校園 15	全面・一部改築の別は次のとおり（数字は改築工事完了年度）。 全面改築校 10 校園 ・幼稚園 御影 8、西野 8 ・小学校 多聞東 8、本庄 9、灘 9、宮川 9 ・中学校 本庄 9、本山 9、鷹匠 9、丸山 9 ・高 校 なし 一部改築校 10 校園 ・幼稚園 なし ・小学校 北野 8、本山第二 9、本山第三 9 ・中学校 御影 9、烏帽子 9、飛松 9、魚崎 9 ・高 校 須磨 9、神戸商業 9、神港 9 解体のみ実施 1 校園 ・大橋中学校 7
	※内訳 幼 2 小 7 中 9 高 3	幼 ー 小 ー 中 1 高 ー	幼 2 小 3 中 ー 高 ー	幼 ー 小 4 中 8 高 3	
補 修 校	274	249	25	ー	8年度完了の25校園は、プール改築、大規模擁壁工事等を実施した校園である。
	※ 内訳 幼 35 小 154 中 69 高 9 盲・養 6 高専 1	幼 32 小 140 中 62 高 9 盲・養 5 高専 1	幼 3 小 14 中 7 高 ー 養 1 高専 ー		
計	295	250	30	15	

第2章 建替各学校園の改築内容

1. 幼稚園

御影幼稚園，西野幼稚園

2. 小学校

本庄小学校，本山第二小学校，本山第三小学校，灘小学校，北野小学校（こうべ小学校），宮川小学校，多聞東小学校

3. 中学校

本庄中学校，本山中学校，魚崎中学校，御影中学校，鷹匠中学校，烏帽子中学校，丸山中学校，飛松中学校

4. 高等学校

神戸商業高等学校（六甲アイランド高等学校），神港高等学校，須磨高等学校

概 要

1. 被災前の状況

(1) 保有面積 園舎 1,540m² その他倉庫 29m² 合計 1,569m²

(2) 園児数及びクラス数

H 6. 5. 1. 3クラス 79人

2. 被害の状況

【園 舎】エキスパンション・ジョイント破損, 柱・内壁・外壁亀裂 半壊 → 全面建替

【プール】プール本体, 洗体槽亀裂 → 改築

3. 建替計画

(1) 建替面積 園舎 724m² (平屋)

教室名	保育室	遊戯室	管理諸室	多目的室	クラブハウス	その他
室数	6	1	5			

(2) 園児数及びクラス数

H 9. 5. 1. 4クラス 98人

(3) 建替えにあたっての特徴

- ① 各保育室及び遊戯室には十分な開口部を設け, 明るい開放的な空間を設けている。
- ② 園舎中央部にピロティーを設け, 雨天時等の園児のたまり場として利用が図れるよう配置している。
- ③ 日当たりのいい南面に保育室を配置した。
- ④ 園長室及び職員室から園庭が見渡せる位置に設け, 園児の充分な管理が行うことができる。

4. 主な防災機能

- ① 構造強度(耐震性)の向上
- ② 上水道の直圧化
- ③ 塀のフェンス・生垣化
- ④ 体育館天井の直天井化

5. 建設のスケジュール

着工 平成8年3月 完成 平成9年3月

6. 設計・監理

財団法人 神戸市都市整備公社

被害写真



旧木造園舎



園舎内部

地震前写真



旧園舎全景
南西上空から撮影
〈向って左。
右は御影小学校〉

完成写真



新しい遊戯室で
元気に運動する園児



園舎全景 園庭より撮影

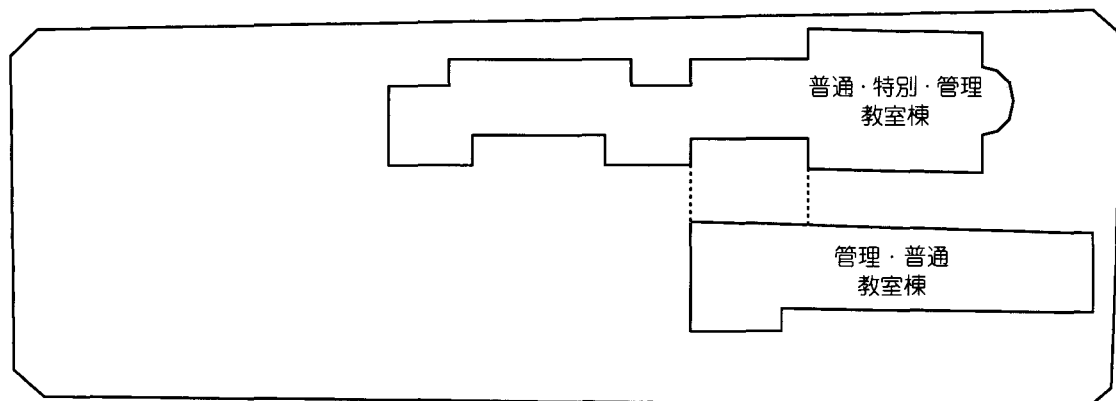
保護者のデザインによってつくられた
正門横のモザイク画



光がさしこむ広いアプローチ

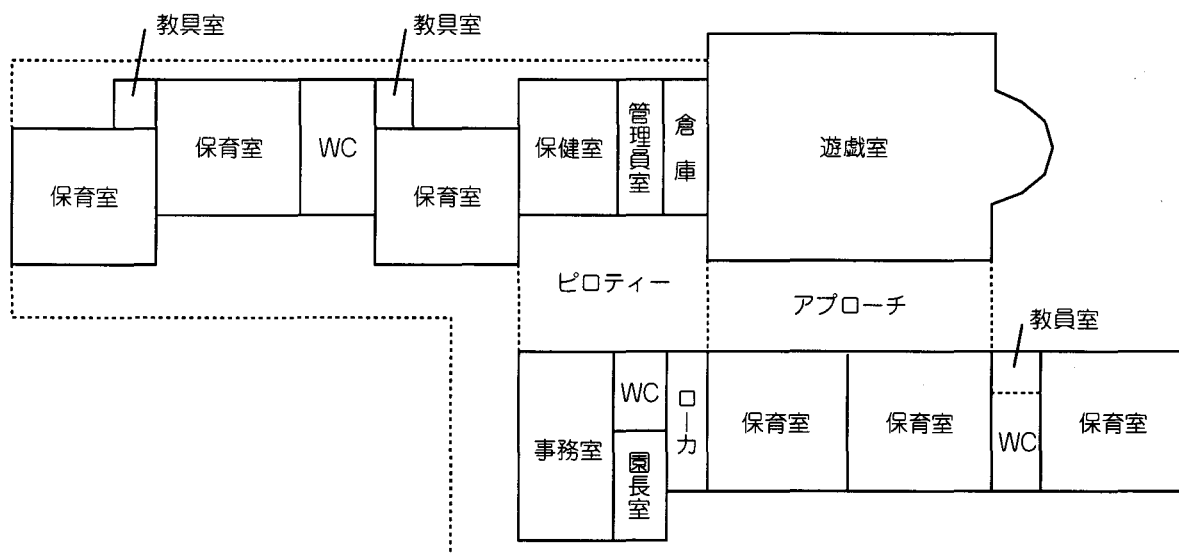
明るく広びろとした遊戯室

御影幼稚園



配置図

方位



1 階

概 要

1. 被災前の状況

(1) 保有面積 園舎 合計 1,223m²

(2) 園児数及びクラス数

H 6. 5. 1. 3 クラス 63人

2. 被害の状況

【園 舎】 木造園舎倒壊 → 移転全面建替

3. 建替計画

(1) 建替面積 園舎 477m² (7 階建の1 階)

教 室 名	保 育 室	遊 戯 室	管理諸室	多目的室	クラブハウス	そ の 他
室 数	4	1	5			

(2) 園児数及びクラス数

H 9. 5. 1. 2 クラス 25人

(3) 建替にあたっての特徴

旧重池幼稚園跡地の市営住宅の1 階に設置する。

4. 主な防災機能

- ① 構造強度（耐震性）の向上
- ② 上水道の直圧化
- ③ 塀のフェンス・生垣化

5. 建設のスケジュール

着工 平成7 年9 月

完成 平成9 年2 月

6. 設計・監理

神戸市住宅局住宅部

被害写真



旧木造園舎



園舎内部



地震前写真

旧園舎全景
南西上空から撮影

完成写真



園舎全景 市営住宅と合併
1階部分に設置



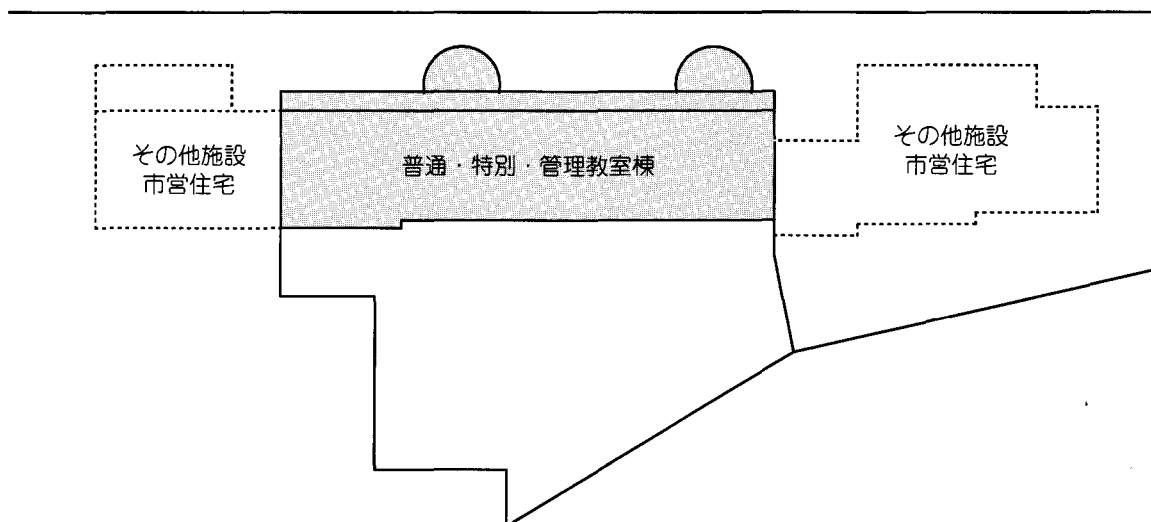
新しい遊戯室で
元気に運動する園児

広びろと開放的な遊戯室

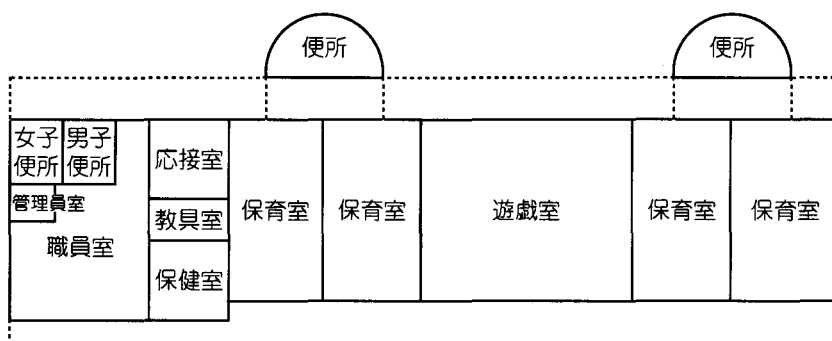


園庭より復旧された園舎をのぞむ

西 野 幼 稚 園



配置図



1 階

概 要

1. 被災前の状況

- (1) 保有面積 校舎 6,418m² 屋体 812m² 給食 156m² 合計 7,386m²
 (2) 児童数及びクラス数 H 6 . 5 . 1 . 31クラス 1,088人

2. 被害の状況

【校 舎】北館／柱・梁破損 半壊, 東館／柱せん断破壊 半壊, 西館／外壁クラック → 全面建替
 【プール】プール本体 亀裂 → 改築

3. 建替計画 (1) 建替面積 校 舎 6,170m²(体育倉庫含む, 4 階建)
 屋 体 1,061m²
 クラブハウス 194m²
 給 食 265m² } 合計 7,690m²

教室名	普通教室	特別教室	管理諸室	多目的室	クラブハウス	そ の 他
室 数	28	9	21	3	屋体クラブハウス	

- (2) 児童数及びクラス数 H 9 . 5 . 1 . 25クラス 812人
 (3) 建替えにあたっての特徴
 ① 小学校敷地の一部を中学校敷地に移行する(約1,750m²)。ただし、小学校の運動場面積は現在の広さ以上を確保し、また中学校の運動場面積は現在の約1.5倍の広さとする。
 【運動場面積】 小学校(5,000→約5,100m²) 中学校(3,672→約5,400m²)
 ② 運動場面積を広く確保するため、プールは屋上プールとする。
 ③ 普通教室(ホーム・ルーム)は全て南向きに配置する。
 ④ 小学校、隣接する中学校とも敷地北側に校舎群を集約して、南側に運動場を配置する。
 ⇒運動場の環境を改善する(日照・広さ)。
 ⑤ 屋体クラブハウス及び多目的スペースの整備など市民開放施設を充実する。
 ⑥ 旧校舎にあった「五輪」の建物意匠を残した塔屋を設置する。

3. 主な防災機能

- ① 構造強度(耐震性)の向上 ⑧ 太陽光発電
 ② 上水道の直圧化 ⑨ 備蓄倉庫の設置
 ③ 塀のフェンス・生垣化 ⑩ トイレ水に利用する雑用水槽の設置
 ④ 犬走りの校舎との一体化 ⑪ 体育館天井のグラスウール化
 ⑤ プールのステンレス化 ⑫ 多目的室教室の設置
 ⑥ プール配管の脱落防止 ⑬ シャワー付更衣室の設置
 ⑦ プール水の消火用取水口設置

4. 建設のスケジュール

着工 平成8年7月 完成 平成9年9月

5. 設計・監理

財団法人 神戸市都市整備公社

被害写真



校舎柱せん断



校舎柱中部せん断



仮設教室での学校生活

地震前写真



校舎全景
南東上空から撮影

完成写真

校舎全景

北西上空から撮影



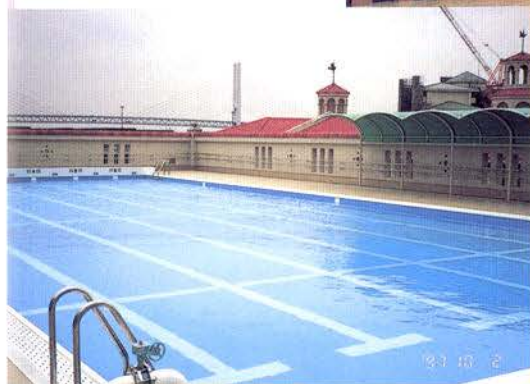
旧校舎の意匠を残した五輪のそびえる時計塔

ひろびろとした屋内体育館

災害時には避難所として
利用される



屋内体育館の屋上に
設置されたステンレスプール



太陽光発電パネル



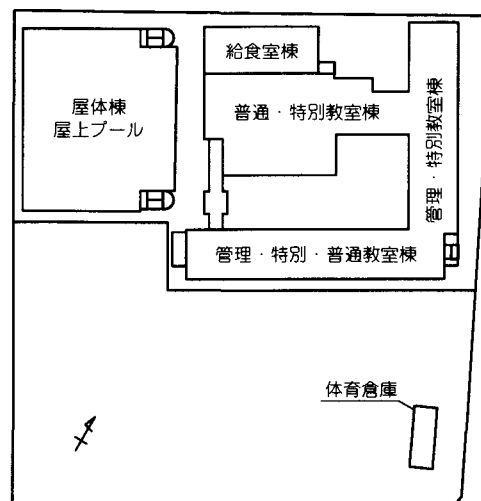
十分な空間をとった玄関回りホール



広く開放された中庭

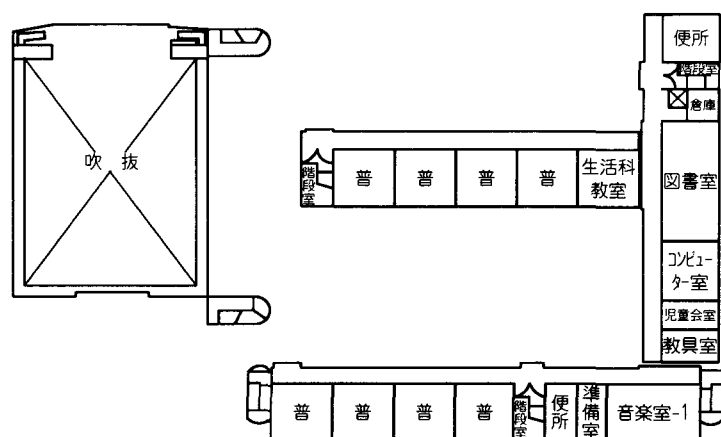


本 庄 小 学 校

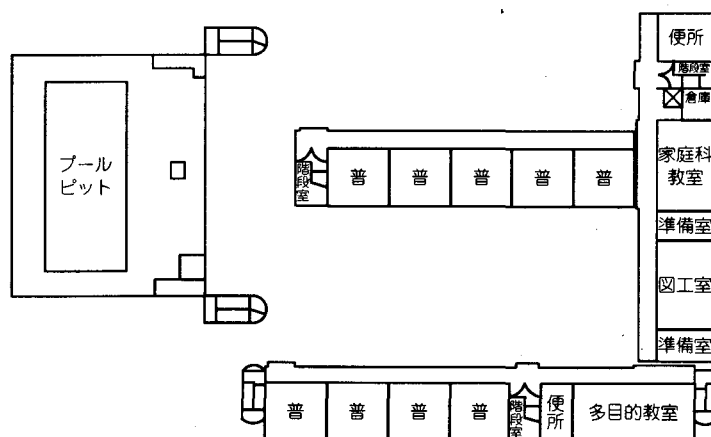


配置図

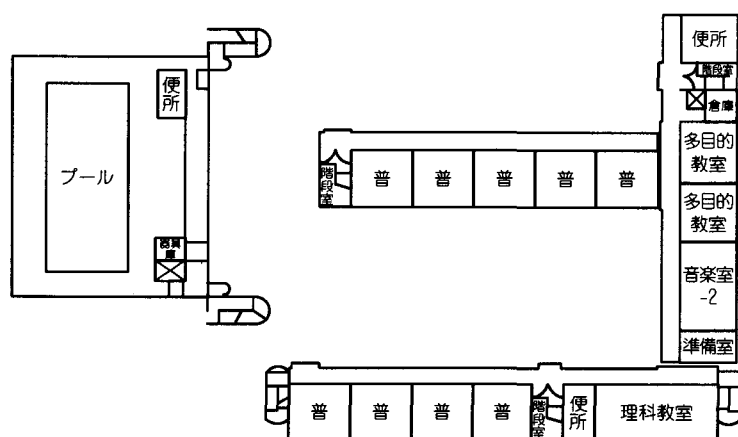
1 階



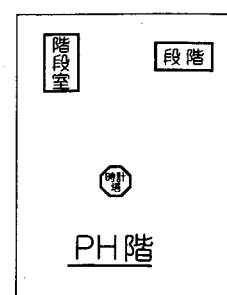
2 階



3 階



4 階



概 要

1. 被災前の状況

- (1) 保有面積 校舎 7,014 m^2 屋体 591 m^2 給食 194 m^2 合計 7,799 m^2
 (2) 児童数及びクラス数 H 6. 5. 1. 33クラス 1,111人

2. 被害の状況

- 【校 舎】本館／柱，耐力壁，梁 せんだん破壊 半壊 → 建替
 東・西館／外壁剥離クラック → 補修
 【プール】プール本体亀裂 → 改築

3. 建替計画 (1) 建替面積 校舎4,851 m^2 (3階建)
 屋体1,053 m^2
 クラブハウス 190 m^2 (うち備蓄倉庫 43 m^2) } 計 6,094 m^2

教室名	普通教室	特別教室	管理諸室	多目的室	クラブハウス	その他
室数	16	8	14	3	屋体クラブハウス	

- (2) 児童数及びクラス数
 H 9. 5. 1. 26クラス 843人
 (3) 建替えにあたっての特徴
 ① 西館，東館及び給食室は建て替えず，補修する。
 ② 校地の有効利用を図るため，中学校敷地と小学校敷地にまたがり重層型の屋体を整備する。(上層 中学校 ・ 下層 小学校)
 ③ 北側の山手幹線の道路拡幅(南側5m)に備え，建物位置をセットバックする。
 ④ 運動場面積を広く確保するため，プールは屋上プールとする。
 ②～④の結果 【運動場面積】7,342 m^2 →約7,000 m^2
 ⑤ 普通教室(ホーム・ルーム)は全て南向きに配置する。
 ⑥ 屋体クラブハウス及び多目的スペースの整備など市民開放施設を充実する。
 ⑦ 旧校舎の外観イメージと階段部の特徴ある飾り金物を復元する。

4. 主な防災機能

- | | |
|----------------|--------------------|
| ① 構造強度(耐震性)の向上 | ⑦ プール水の消火用取水口設置 |
| ② 上水道の直圧化 | ⑧ 備蓄倉庫の設置 |
| ③ 犬走りの校舎との一体化 | ⑨ トイレ水に利用する雑用水槽の設置 |
| ④ プールのステンレス化 | ⑩ 多目的室教室の設置 |
| ⑤ プール配管の脱落防止 | ⑪ シャワー付更衣室の設置 |
| ⑥ 体育館天井の直天井化 | |

5. 建設のスケジュール

着工 平成8年7月 完成 平成10年1月

6. 設計・監理

神戸市住宅局営繕部

被害写真



校舎内部 柱中部せん断



旧校舎
建物意匠に特徴があった

地震前写真



旧校舎全景
東上空から撮影（奥）

完成写真



体育館棟全景
2階は本山中学校体育館



校舎前面 正門正面から撮影



広い空間をもつ多目的教室



校舎全景 旧校舎の意匠をのこした



広びろとした体育館



新しい体育館で元気よく運動する児童達

#

概 要

1. 被災前の状況

- (1) 保有面積 校舎 4,520 m^2 屋体 564 m^2 給食 99 m^2 合計 5,183 m^2
 (2) 児童数及びクラス数 H 6 . 5 . 1 . 24クラス 794人

2. 被害の状況

- 【校 舎】管理棟／柱せん断破壊・基礎損傷 半壊 → 建替
 本 館／外壁クラック → 補修
 【プール】プールクラック → 補修

3. 建替計画

- (1) 建替面積 校舎 2,029 m^2 (3階建)
 屋体 926 m^2
 クラブハウス 245 m^2 計 3,200 m^2

教 室 名	普通教室	特別教室	管理諸室	多目的室	クラブハウス	そ の 他
室 数		5	16	4	屋体クラブハウス	

- (2) 児童数及びクラス数
 H 9 . 5 . 1 . 18クラス 567人
 (3) 建替にあたっての特徴
 ① 大きさが不十分であった屋体の広さを確保した。(2階部分)
 ② 2階の屋体に並んで体育施設開放時のクラブハウスを設置する。
 ③ 多目的教室を普通教室サイズで確保し、将来の生徒数増加時の収容対策とする。

4. 主な防災機能

- ① 構造強度（耐震性）の向上 ④ 備蓄倉庫の設置
 ② 上水道の直圧化 ⑤ 多目的教室の設置
 ③ 体育館天井の直天井化 ⑥ シャワー付更衣室の設置

5. 建設のスケジュール

着工 平成8年7月 完成 平成9年8月

6. 設計・監理

財団法人 神戸市都市整備公社

被害写真



校舎外部柱せん断



校舎出入口横柱せん断

地震前写真

旧校舎全景
南西上空から撮影



完成写真



建替校舎・体育館 運動場より撮影



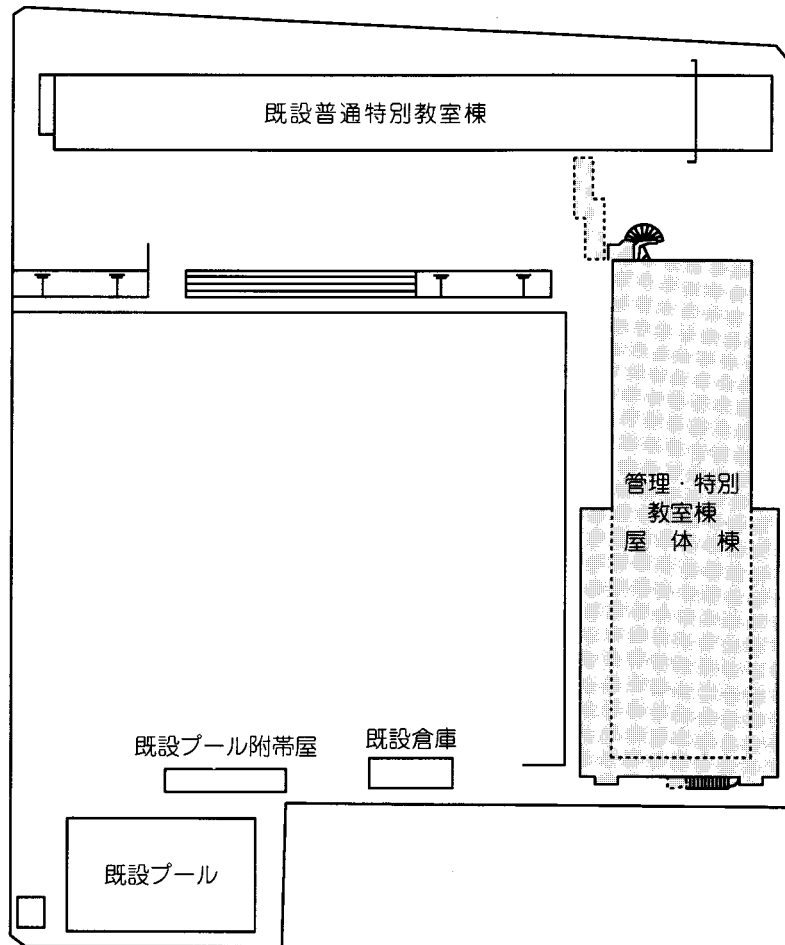
校舎全景
南西上空から撮影

直天井の広びろとした体育館



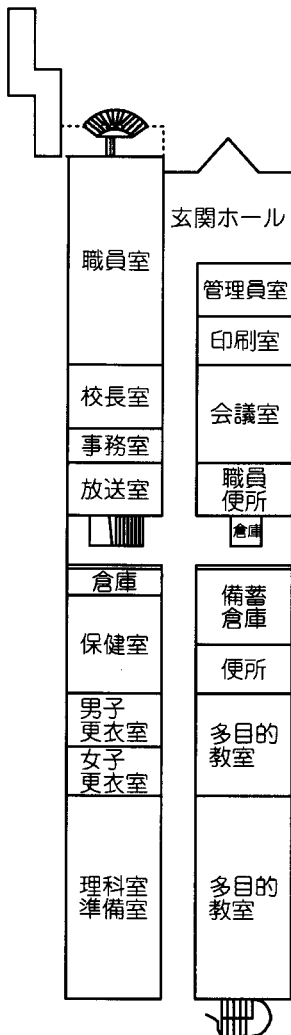
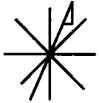
新しい音楽室での授業風景

本山第三小学校

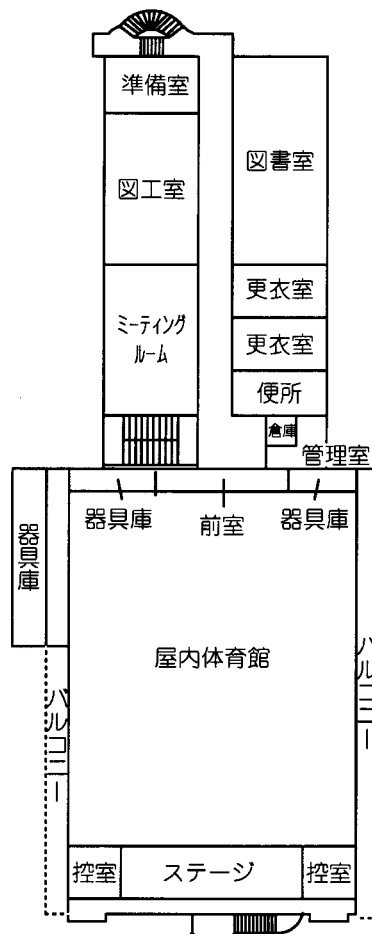


配置図

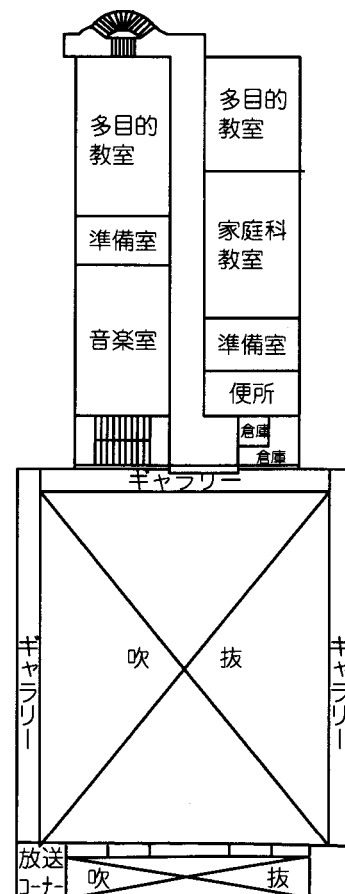
方位



1 階



2 階

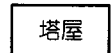


3 階

機械室



塔屋



概 要

1. 被災前の状況

- (1) 保有面積 校舎 4,266m² 屋体 617m² 給食 118m² 合計 5,001m²
 (2) 児童数及びクラス数 H 6. 5. 1. 15クラス 459人

2. 被害の状況

- 【校 舎】管理棟／柱せん断破壊 → 建替*
 【プー ル】プール本体亀裂 → 改築

3. 建替計画 (1) 建替面積 校舎4,132m² (4階建)屋体 864m²クラブハウス 202m²給食 146m²計 5,344m²

教室名	普通教室	特別教室	管理諸室	多目的室	クラブハウス	その他
室数	16	6	10	3	屋体クラブハウス	

(2) 児童数及びクラス数

H 9. 5. 1. 12クラス 302人

(3) 建替えにあたっての特徴

- ① プールを含め全面改築を行う。
 (*震災当時、既に国庫補助認定を受けていた全面改築事業校であったが、そのうち半壊認定が得られた管理棟と屋体について災害新築復旧事業に切り換えたものである。)
 ② 運動場面積を広く確保するため、校舎を北側に集約し、屋上にプールを設置した。
 【運動場面積】3,855m²→約4,400m²
 ③ 屋体クラブハウス及び多目的スペースの整備など市民開放施設を充実する。
 ④ エコロジーを取り入れ、南面バルコニーに雨水を利用した植栽スペースを設けている。

4. 主な防災機能

- | | |
|----------------|-------------------|
| ① 構造強度(耐震性)の向上 | ⑦ プール水の消防用取水口設置 |
| ② 上水道の直圧化 | ⑧ 体育館天井の直天井化 |
| ③ 塀のフェンス・生垣化 | ⑨ 備蓄倉庫の設置 |
| ④ 犬走りの校舎との一体化 | ⑩ トイレ水に利用する雑用水槽設置 |
| ⑤ プールのステンレス化 | ⑪ 多目的教室の設置 |
| ⑥ プール配管の脱落防止 | ⑫ シャワー付更衣室の設置 |

5. 建設スケジュール

着工 平成 6年12月(震災のため7月9月まで中断)

完成 平成 9年11月(第1期工事平成8年11月)

6. 設計・監理

神戸市住宅局営繕部

被害写真



校舎外部柱せん断

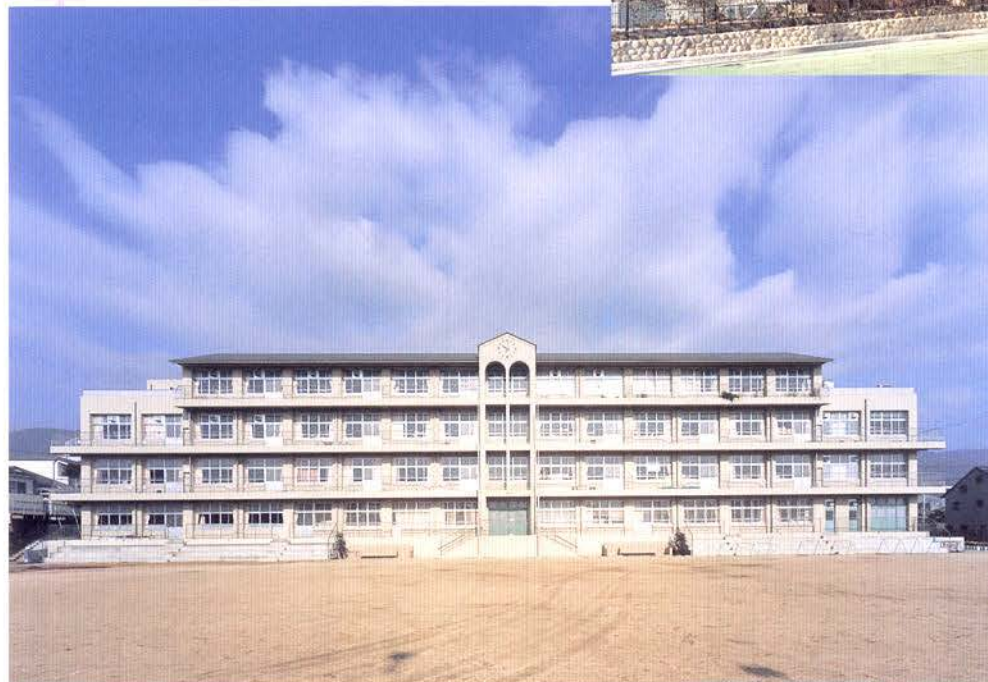
地震前写真



旧校舎全景
南東上空から撮影

完成写真

校舎全景 運動場より撮影



校舎全景 東側より撮影



市内でも最大級の広びろとした
多目的室での授業風景



復旧された体育館で
元気に運動する児童達

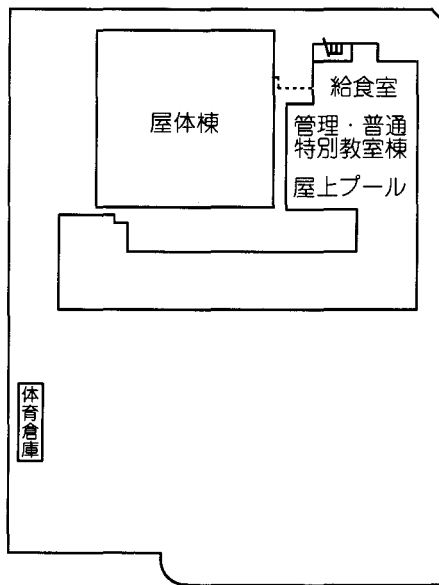
体育館前屋外通路



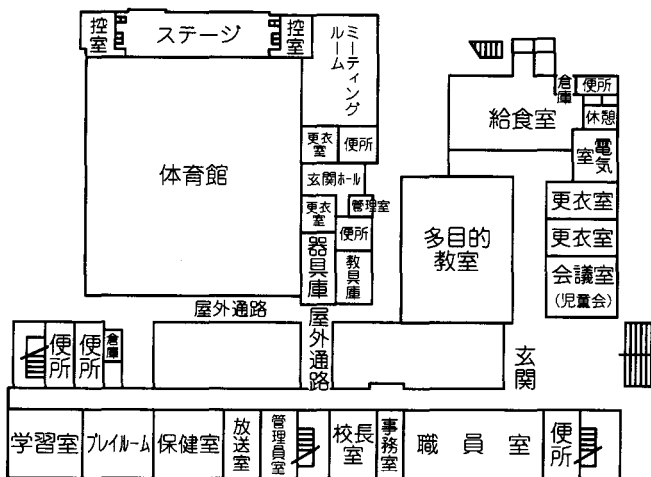
屋上プール



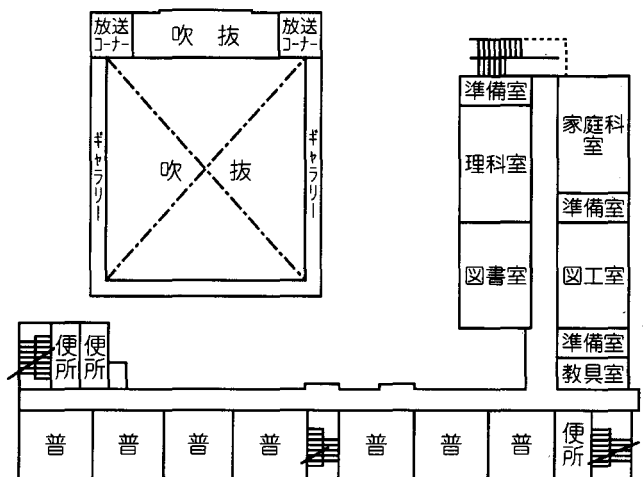
灘 小 学 校



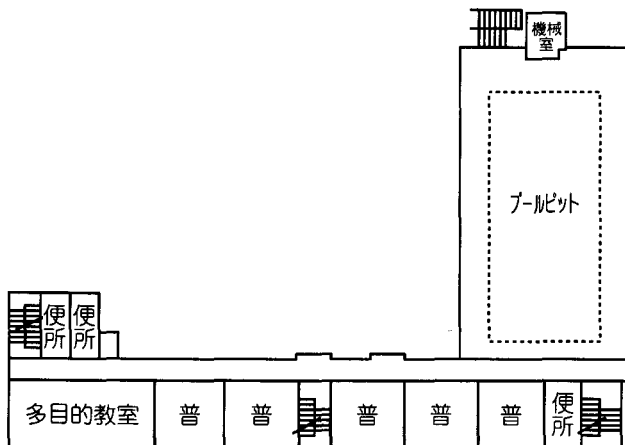
配置図



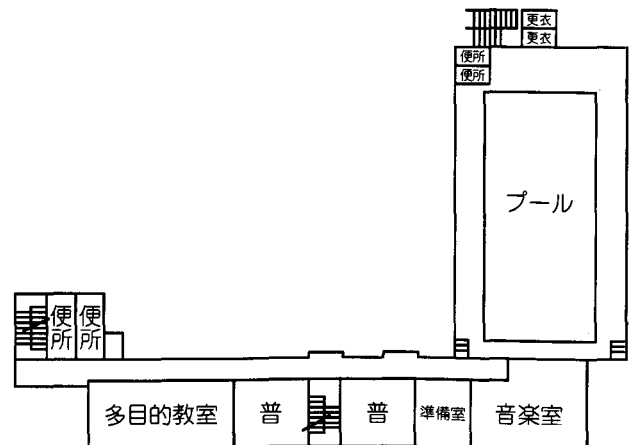
1 階



2 階



3 階



4 階

概 要

1. 被災前の状況

- (1) 保有面積 校 舎 3,116m²
 屋 体 433m² 合計 3,633m²
 給食室 84m²
- (2) 児童数及びクラス数
 H 6 . 5 . 1 . 7 クラス 137人

2. 被害の状況

【校 舎】北館／柱せん断破壊 半壊 → 移転建替

3. 建替計画

建替面積 校舎 997m²（2階建）

教 室 名	普通教室	特別教室	管理諸室	多目的室	クラブハウス	そ の 他
室 数	5	2	1	1		

4. 主な防災機能

- ① 構造強度（耐震性）の向上 ④ プール配管の脱落防止
 ② 塀のフェンス・生垣化 ⑤ 多目的教室の設置
 ③ プールのFRP化

5. 建設のスケジュール

着工 平成7年10月

完成 平成8年6月

6. 設計・監理

神戸市住宅局営繕部

被害写真



校舎増築部分柱亀裂

地震前写真



旧校舎全景
南西上空から撮影

完成写真



校舎全景
南東角より撮影



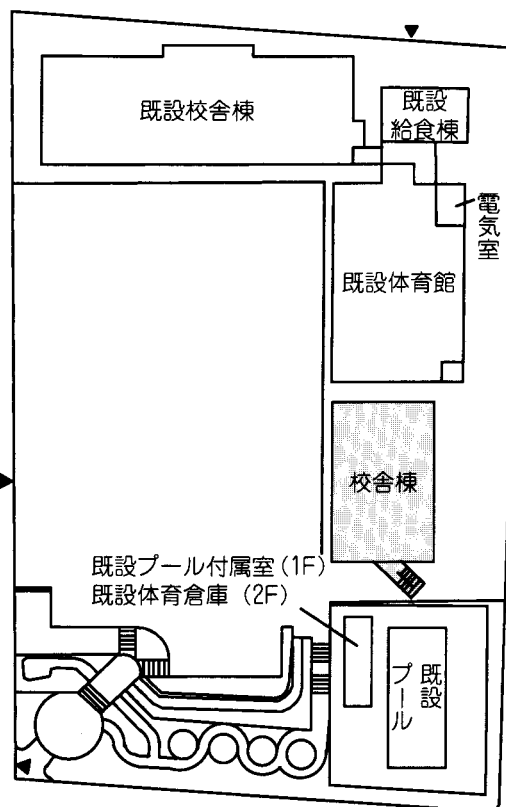
改築校舎 運動場より撮影

開放的な多目的教室

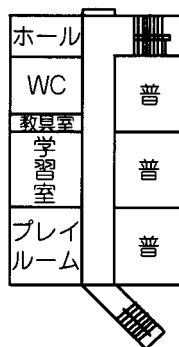
特徴ある屋外階段



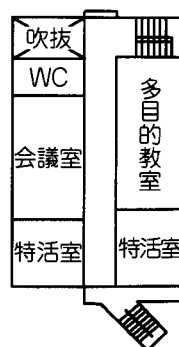
こ う べ 小 学 校



配置図



1 階



2 階

富川小学校

被害写真



校舎外部柱せん断



地震前写真



旧校舎全景
南東上空から撮影

完成写真

校舎全景
南東角部分



体育館アリーナ



屋上プール



玄関横の広く開放的なホール



概 要

1. 被災前の状況

- (1) 保有面積 校 舎 4,851 m^2 屋体 745 m^2 給食室 155 m^2 合計 5,751 m^2
 (2) 児童数及びクラス数 H 6. 5. 1. 24クラス 798人

2. 被害の状況

【校 舎】校舎 全棟 柱せん断破壊 半壊 → 全面建替

【屋 体】体育館床不陸 → 補修

【プール】プールクラック → 補修

3. 建替計画

- (1) 建替面積 校 舎 5,462 m^2 (3階建)
 クラブハウス 156 m^2
 給食室 165 m^2 計 5,783 m^2

教 室 名	普通教室	特別教室	管理諸室	多目的室	クラブハウス	そ の 他
室 数	25	8	16	4	校舎クラブハウス	

- (2) 児童数及びクラス数
 H 9. 5. 1. 21クラス 698人
 (3) 建替えにあたっての特徴
 ① 1階エントランス部を広く取っており、ゲートとしての機能ばかりでなく多目的利用が図れるよう配慮している。
 ② 地域開放を念頭において、学校機能を確保しつつ開放ゾーンとの分離が図れるよう配置している。
 ③ 日当たりのいい南面に普通教室を配置した。

4. 主な防災機能

- ① 構造強度(耐震性)の向上 ⑥ 備蓄倉庫の設置
 ② 上水道の直圧化 ⑦ トイレ水に利用する雑用水槽設置
 ③ 塀のフェンス・生垣化 ⑧ 多目的教室の設置
 ④ 犬走りの校舎との一体化 ⑨ シャワー付更衣室の設置
 ⑤ プール水の消防用取水口設置(既存)

5. 建設のスケジュール

着工 平成8年3月 完成 平成9年3月

6. 設計・監理

神戸市住宅局営繕部

被害写真



校舎柱せん断



校舎柱せん断

地震前写真



旧校舎全景
北西上空から撮影

完成写真



校舎全景
正門より撮影

新しくきれいな教室での学校生活



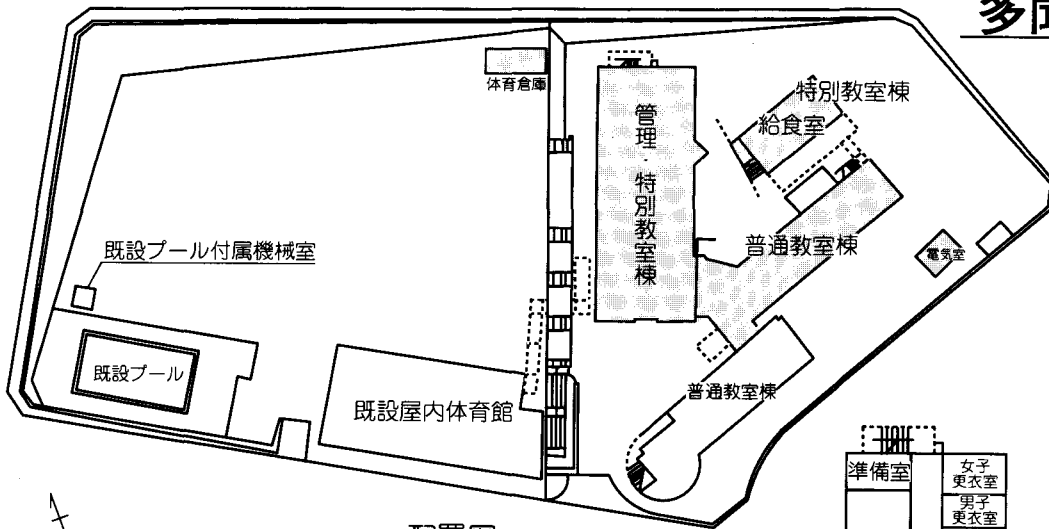
広く開放的な玄関前の広場

給食室上階の明るいランチルーム

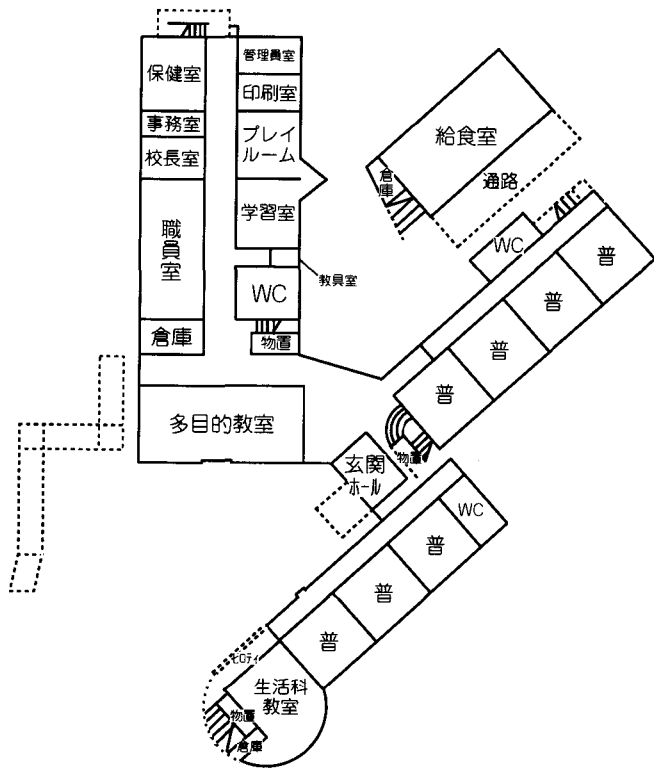


仮設教室が撤去され整地されたグラウンド
で元気に走る児童

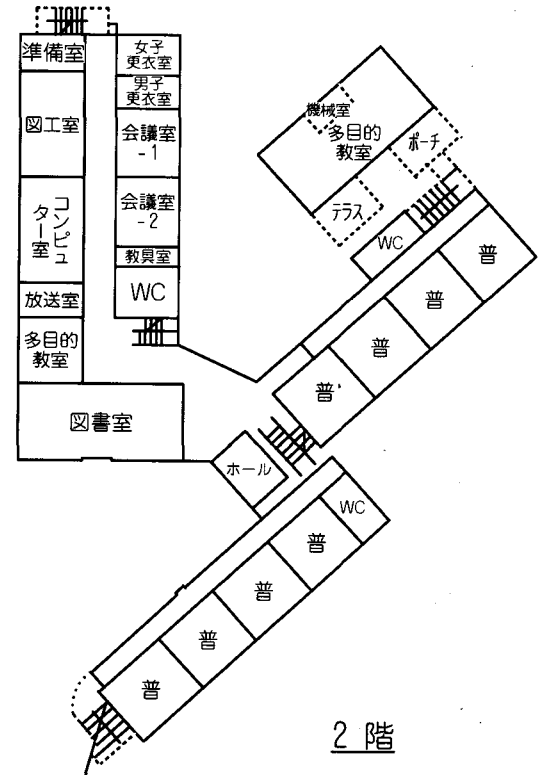
多聞東小学校



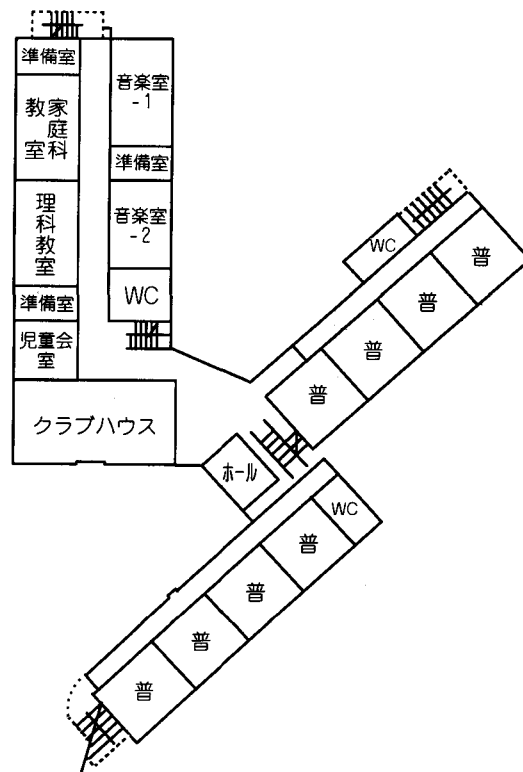
配置図



1 階



2 階



3 階